

「亀戸天神の擬木工事」現場見学会

報告者：施工技術部会 小松

日 時 : 平成 26 年 7 月 12 日 (土) 14 : 30 ~ 17 : 00
場 所 : 東京都江東区亀戸 3 丁目 6 番 1 号 亀戸天神社内
講 師 : 東京農業大学 地域環境科学部 粟野隆氏
(有)擬松村擬木 デザイン・施工部部長 松村守氏
協 力 : 亀戸天神社、(有)松村擬木、(株)富士植木
参加者数 : 25 名

内 容

1 . 概 要

14:30 ~ 14:50 亀戸天神社参拝
14:50 ~ 15:20 擬木の歴史 (粟野隆講師)
15:20 ~ 16:20 施工現場見学(松村守講師)
16:20 ~ 17:00 質疑応答



擬木を背景に記念撮影

2 . 亀戸天神社参拝

見学会の開催にご協力頂きました亀戸天神社様に参拝。古谷支部長が御社殿に玉串を奉納し、会場提供の御礼と新体制でスタートした造園学会関東支部の更なる発展を祈願しました。

亀戸天神社は、都内随一の藤の名所で新東京百景にも選ばれています。約 350 年前の神社創設当時から植えられたと伝えられる藤を池の中から支えているのが擬木の支柱です。御神職の装束も、藤色と水色がおりなす美しいお召し物で日本文化の奥深さを感じました。



広重の錦絵

2 . 日本における擬木の歴史

講師：粟野 隆 氏 (東京農業大学)

「日本近代の擬木・擬石の創始者・松村重と松村擬木」をテーマに、日本における擬木の歴史を東京農業大学の粟野講師に解説いただきました。

松村擬木は大正期、初代松村重がフランス式擬木、擬岩工法を習得し、帰国後に井下清氏の協力を得て企業化した老舗です。大正末期に井下氏がパリのビュテ・ショーモン公園の擬木を見て多少の改良を行い、その基本技術や使用される材料は現在も受け継がれています。



粟野講師



会場風景



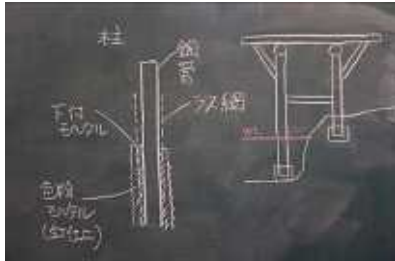
新宿御苑の擬木

3. 施工技術と材料の解説

講師：松村 守 氏（有限会社松村擬木 デザイン・施工部部长 ）

擬木の構造と施工手順

擬木の骨格は、コンクリート基礎と鋼管の柱や梁により構成され、かなり頑丈な構造になっている。装飾は、ステンメッシュ網に下地モルタルを塗りこみ、その上に色粉を混ぜたモルタルを塗りこみ、コテや釘で木目を入れて入念に仕上げられています。



擬木構造図



擬木構造断面



松村講師

水中施工における匠の技

池に沈む部分は、あらかじめ工場にてコンクリート基礎と擬木加工を施して現場に搬入し設置する。水上にて鋼管柱を電気溶接する際、池の中にある亀が感電しないよう配慮し、万が一に備えて亀に保険を掛けたとのこと。保険料の算出方法が少し気になりました。（笑）



水上の擬木



加工された基礎部分



亀・かめ・カメ

木目仕上げと材料

色粉（マイン、水とけ松煙）混和材（メトロース）繊維（ハードウール）などをモルタルに混ぜ、コテや五寸釘の先を潰した手作りの道具で引掻き、微細な木肌仕上げをしていく。樹皮の捲れやひび割れまで表現するのが松村擬木流。息をのむ匠の技でした。



コテ類と色粉



五寸釘でつくられた道具



松村擬木の匠の技

以上